

ねりとう GOLF

練馬稲門会ゴルフ部会会報 (年2回発行)

2009年夏 Vol.2

第7回 練馬早慶対抗ゴルフ大会を開催

部会長 中島晴喜 (S33 商)

若葉薫る5月14日(木)に鳩山カントリークラブに於いて、『第7回練馬早慶対抗ゴルフ大会』(通算106回月例コンペ)を開催した。

参加者は総勢8組30名(稲門会21名、三田会9名)で、現役の頃を思い出しお互いにライバルとして切磋琢磨してきた良い関係を、ゴルフ対抗戦を通じて確かめ合い継続してゆくべく名門ゴルフコースに集結した。

結果は、個人戦優勝は神谷修氏(三田会)が2度目の栄冠を獲得し、団体戦は参加者数に優位な稲門会が圧勝し、通算成績を6勝1敗とした。表彰パーティ会場では「紺碧の空」「若き血」をそれぞれ全員で斉唱し、お互いのエール交換と次回の再会を約束し解散した。



《鳩山カントリークラブ パーティ会場で早慶のエール交換》

2009年度 後半の月例コンペ予定

・第108回	9月29日(火)	飯能ゴルフクラブ
・第109回	10月20日(火)	常陽カントリークラブ
・早大校友会ゴルフ大会	11月5日(木)	久邇カントリークラブ
・第110回	11月12日(木)	富岡カントリークラブ
・第111回	12月10日(木)	清澄ゴルフクラブ

第 104 回 月例コンペで優勝

小松袈伴 (S30 商)

同伴競技者の中島部長から「優勝スピーチを考えておいて」と言われるくらい快調な出だしで、部長の眼力も流石でした！ 実はその優勝 HC に恵まれてのもので、そのスピーチも感激どころかニューイヤークンサートの PR に終始し、荻野会長ご自身が実行委員長となり今後 30 年間毎年 50 万円を練馬区緑のハッピー基金に寄付し続ける大事業として取組んでおられる事をご案内し、是非ご協力をというお願いでした。

さて、ゴルフ部に入れて頂くには、先ず中島部長による資格審査です。マナーから技量まで緊張のラウンドでしたが、私のゴルフの手解きをしてくださったのは、元千代田生命の S 常務さんです。

生命保険協会の帰途ゴルフショップに誘われ、「勘定は何時でもいいから」との甘い言葉を真に受けてキャディーバックを持ち帰ったのですが、月末にはショップから「すぐに払え」と催促され、窮余の策を考え、そのころから家内には内緒でヘソクリをつくる術を憶えたものです。やがて本社へ戻り、小山 GC での社内コンペがありました。

楽しみにしていたのに朝からの大雨、当然中止だろうとノンビリしていたら小山は雨も止みコンペは成立、翌日重役に呼びつけられ「ゴルフコンペでは、雨が降っていても会場には・・・」と、コンコンと諭されるという大失態でした。



ですから「鳩山 CC でのあの時！」は、どんなに雨が降っていても駆けつけなくては成らなかったのです。

第 105 回 月例コンペに優勝して

林 宏 (S32 商)

去る 4 月 14 日、石坂ゴルフクラブで行われた第 105 回 月例コンペに於いて、優勝を飾りました。当会では二度目の優勝でした。スコアは 48・51 でしたが、ハンデキャップ 30 に救われ 3 アンダーでの優勝でした。

一回目の優勝は平成 10 年 10 月 29 日の若洲ゴルフリンクスのワンアンダーでの優勝でしたが、ハンデキャップは 18 でした。従ってグロスでは 10 ストロークの差があります。ただし数年前、脳底動脈狭窄症を患って以来、ハーフ 60 を切るのに苦労していた時代を顧みる時、約 10 年振りの奇跡に近い誠に嬉しく喜ばしい優勝でした。

それと、最近購入した 4 セット目にあたるテーラーメイド製のゴルフクラブは、私にとって誠に相性が良く喜ばしい限りであります。

これから 80 歳迄の 5 年間、同伴パートナーに迷惑をかける事の無いようプレーして行けたらと、念願しています。

一球入魂をモットーに頑張ります。



第 106 回優勝

剣持典夫 (S46 政経)

練馬稲門会ゴルフ部会には、本年 4 月から参加しています。4 月の石坂ゴルフ倶楽部コンペでは、ショットに苦しむ私に同組の中島部会長・利根川様・横山様から励ましの言葉を掛けて頂き、秘かに入部して良かったと思ったものです。

5 月の鳩山カントリークラブ月例コンペでは、
 ①ツキが多分にあったこと
 ②ハンディキャップ 22 に助けられたこと
 ③同組の石渡様・蔵本様と、楽しくリズムよく回れたこと 等により優勝することができました。有難うございました。

今後ともに上半身に無駄な力を加えないで打つことを練習場でトレーニングをし、再び優勝を期すべくコンペに参加して行きたいと思っていますので、よろしくお願いします。



通算100回コンペを振り返って	
データ6. 個人別優勝回数上位ランキング(3回以上)	
① 中島晴喜	・15回 (コンペ参加回数 97回)
② 清水 晃	・10回 (" 59回)
③ 高崎龍介	・ 5回 (" 35回)
北原良三	・ 5回 (" 30回)
戸津川隆久	・ 5回 (" 28回)
⑥ 三宅紳童	・ 4回 (" 27回)
⑦ 石渡明雄	・ 3回 (" 43回)
石井弘美	・ 3回 (" 28回)
田所一夫	・ 3回 (" 25回)
データ7. 個人別ベストグロススコア上位ランキング	
① 73...	戸津川隆久 ('04.4.22 武蔵富士C/C)
② 76...	中島晴喜 ('99.6.15 岡部チサンC/C)
③ 79...	清水 晃 ('00.4.19 鴻巣C/C)
④ 81...	北原良三 ('01.12.4 武蔵富士C/C)
⑤ 82...	石井弘美 ('08.5.13 飯能グリーンC/C)
⑥ 83...	高崎龍介 ('03.9.18 高坂C/C)
データ8. チーム団体戦での戦績	
① 早大総長杯ゴルフコンペ	
・第1回稲門会対抗戦...	優勝(H.16.11.5(金)おむらさきG/C)
・第2回	" ...優勝(H.17.11.7(月) ")
・第3回	" ... 2位(H.18.11.6(月) ")
・第4回	" ... 3位(H.19.11.5(月) ")
② 練馬早慶対抗ゴルフ大会(H.16. 9. 17(金)~H.20. 5. 13(火))	
・通算5勝1敗	
③ 首都圏各稲門会交流コンペ(豊島・杉並・文京・大田・小平・浦和・川越 各稲門会)	
・通算3勝2敗	

私のゴルフとカラオケ

野田 明 (S37 政経)

今から約 35 年前 (昭和 49 年頃) にゴルフなるものに出会い、早速一目惚れする。

通勤帰途には上井草ゴルフ練習場に毎日の如く立ち寄ってプロにレッスンを受け、自分でも惚れ惚れする様なボールを打ち、又プロの煽てにも乗って一年足らずで 100 を切る事が出来、非常に喜んだ記憶がある。丁度その頃、12ch で放映されていた「小松原道場」の舞台にもなった「紫塚ゴルフクラブ」の会員になって、二年程でオフィシャル HC18 を取得する事が出来た。その後は壁にぶち当たって上達はせず、練習もしなくなり 100 も切れずの状態に陥った。

そんな折に又の恋人なるカラオケに出会い、友人の経営する中村橋のパブ「樗」にのめり込み、杉並松の木にあったテイチクの「カラオケ教室」にも通い、一応はシングル手前までにはなったと自負している所です。

どうやら今日 72 歳まで、何事にもめり込む性格で人生を送ってきた様である。

残る人生どこまでのめり込む事が出来るか、そろそろ古き恋人のゴルフを惚れ直そうかと思っている、今日この頃です。



平成21年 前期(3月~6月)収支表

(収入)		円	(支出)		円
1. 前期より繰越金		9,748	1. 賞品代		139,168
2. 参加費		235,000	2. パーティ会費		103,900
	[3. 手土産代		18,376
	3,000 × 72		4. 郵便切手代		3,700
	1,000 × 19		5. コピー代 ほか		1,758
3. チャリティ		35,700	6. 次期へ繰越金		13,546
計		280,448	計		280,448

私のゴルフ「お宝さん」の御紹介

スコアの記録グラフに、

サムスニード・シムリアスボロスのサインをゲット

田中 秀憲 (S35 理工)

学生時代に父親のゴルフに運転手として同行し、クラブ 2~3 本持ってコースに出た事はあったが、日立製作所に入社後 2 年目の 1967 年 5 月、半導体のセールスエンジニア第 1 号として北米シカゴに駐在してからゴルフを始めたのが 24 歳だった。

「アメリカの駐在員になったら特典としてゴルフ場のメンバーにしてやる」と歓送会で日立の幹部から上手い事を言われたが、シカゴのミシガン湖周辺のパブリックコースは 9 ホールで 75 セント、18 ホールが \$1.25 (当時 ¥450) と安い大衆スポーツである事が判った。

夏には小・中学生が仲間同志で上半身裸でプレーしており、またある時は水着の新婚ペアが前の組で、パットが入る度にグリーン場で抱擁し、それが終わるまで後ろ組はプレー出来ず文句も言わずに待っていた。日本のゴルフはアメリカと関係なくイギリスからの流れである。

厳寒のシカゴではマイナス 25 度も経験し、買ったコカコーラ 1 ダースを車のトランクに入れボーリングから帰ったらボトルが皆凍り爆発してた程で、ゴルフ場でもピンがホールに凍りついて抜けないし、ウォーターハザードはまるでスケート場でボールは 300 ヤード以上滑って行く。殆どのコースは 10 月~4 月はクローズするが、一部のコッグヒル、スポーツマン CC 等は意地でも無理してオープンし、アメリカ人ゴルファーの伝統を守っていた。

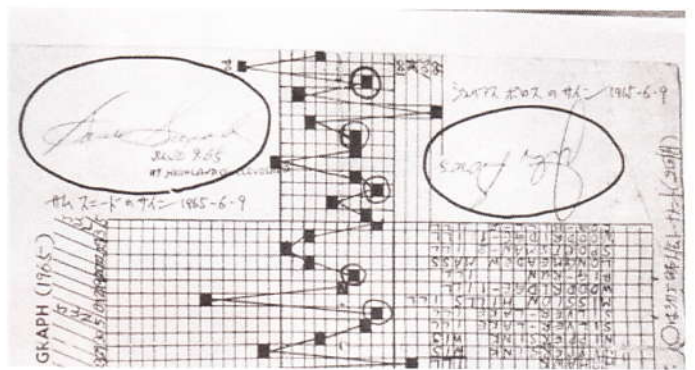
5 月にゴルフ解禁になると、シカゴ日本人会も月 2 回の定例会がありスポーツはゴルフ一色となり、各業界もゴルフによる交流・外交を計る。海外駐在員は大阪の商社マンが中核をなし、「なにやってみんねん」とゴルフ場で英語より大阪弁を覚えるのが先行する

駐在員は週末になると、日本からの出張者はゴルフ未経験者でも否応無しにコースに案内しプレー後、帰りにはゴルフショップに連れて行き 5 万円程度のフルセットを買わせ帰国させる。当時のパーシモンのマクレガーターニーは今やお宝もので、40 万円を下回らず喜ばせている。

プロのトーナメントにも御案内し、本場のゴルフは有名なプロとの出会いとなり感動を受ける。添付の色紙は 1965 年イリノイ州シカゴ近郊のハイランド CC のウエスタンオープンに於いて「ゴルフの神様」サムスニードからサインを受ける事が出来た「お宝さん」である。

そこではまだ若き「パーマー・ニクラウス・プレーヤー」のビックスリーのプレーにも出会えたが、アーノルドパーマーの腕の太さが自分の足以上の太さなのは驚きだった。

昨年末で最初からカウントしているゴルフも 1260 ラウンドをこえた。ハンデは始めた年齢の半分となる、と言われているがハンデ 12 には至らず。今年は 18 ホールパーの 72 歳となったが、エージシュートとは夢物語である事が判り始めた、我がゴルフ人生である。



練馬稲門会ゴルフ部会 第 107 回月例コンペ IN 北海道

北海道ツアー幹事代表 野田 明 (S37 政経)

去る 6 月 3 日 (水) と 4 日 (木) の 1 泊 2 日間で、初の『陽春の北海道ゴルフツアー』を実施。早朝 6 時 30 分 羽田空港集合、7 時 30 分発 JAL 便で新千歳空港に 9 時着の予定でツアーをスタートした。到着後、送迎バスで会場となる名門コース『ニドムクラシックピリカコース』で第 107 回月例コンペの 1 ラウンドのプレイを行った。

参加者は札幌稲門会から 2 名の合流を含め、6 組 21 名が北の大地でプレイを楽しんだ。気候はゴルフには最適条件でツツジとサツキの花が満開で、しかもエゾハル蝉が鳴き叫び野生のキタキツネが何匹かプレイヤーの側まで近寄りエサを貰ったりするのを眺めたりと、プレイ以外にも皆が楽しんだ。

北の大地での月例コンペの成績は、ネット 71 で矢沢西二氏が 2 位以下に大差をつけ初優勝。準優勝は小島滋氏 (ネット 76) が獲得した。

当日夜は、メンバー全員が楽しみにしていた『ジンギスカン鍋』と『飲み放題の生ビール』を札幌すすきのビール園で堪能した。

翌日も『アーレックスゴルフ倶楽部』でオープン競技の 18 ホールスループレイを行い、2 日間通算 36 ホールの北海道ゴルフツアーを全員無事終了した。

参加メンバーの平均年齢はゴールドシニアの 70 歳位と思われるが、皆々元気で 1 泊 2 日間の初の北海道ゴルフツアーをクリア出来たことは何よりでした。



優勝の矢沢西二氏



《北海道ニドムクラシックピリカコース スタート前の記念写真》